

科目名	担当者名	配当	期	単位
刑事訴訟法特別演習	松本英俊	2必	後期	2

■講義内容■

授業では、捜査の端緒から捜査段階の重要なテーマについて、手続の流れにそって検討していく。起訴後については、訴因の問題及び証拠法を中心に重要なテーマについて検討する。そこでは、具体的テーマ毎に詳細な検討・議論を行うことにより、問題の発掘・解決方法を身につけることになる。

■シラバス■

<科目のねらい>

受講者がすでに刑事訴訟手続の全体像及び刑事訴訟法の重要な基本的知識について理解・習得していることを前提とし、手続の各段階における個別具体的な問題の検討を通して刑事訴訟手続を巡る諸課題を自ら発掘し解決する力を身につけることを目的とする。講義方法としては、手続の各段階における諸課題に関する具体的な事例問題を出題し、問答方式による双方向的な対話・討論型の授業を行う。各回の講義計画は以下のとおりである。

<科目の内容>

第1回 捜査の原則・捜査の端緒

捜査の諸原則や捜査の端緒に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第2回 任意捜査と強制捜査

任意捜査の限界等に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第3回 身体の拘束

逮捕・勾留に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第4回・第5回 証拠収集

捜索・差押えに関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第6回 取調べと被疑者の防御権

身体拘束中の被疑者取調べに関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第7回 公訴提起

公訴提起や訴因の特定に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第8回 訴因

訴因変更に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第9回 公判準備と公判前整理手続

公判前整理手続や証拠開示に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第10回 証拠法総説

証拠法の基本原則に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第11回 違法収集証拠の排除

違法収集証拠の排除法則に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第12回 自白法則

自白の任意性に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第13回・第14回 伝聞法則

伝聞証拠に関する具体的な事例問題を通して、判例や法解釈などについても多面的・多角的に検討する。

第15回 定期試験

<教科書>

未定

<参考書>

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選 [第9版] <別冊ジュリスト 203>』(有斐閣、2011)